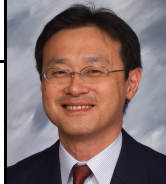


タイトル 国際教育の質保障と学習成果分析(グローバル人材の資質をどう測るか)					
分野		キーワード	① 比較教育	② 国際教育交流	
国際教育					
研究者氏名: 芦沢 真五		[お問い合わせ先]			
(所属: 国際地域学部国際地域学科)		TEL: 090 - 4007 - 8356			
		メールアドレス: ashizawa@toyo.jp			

【概要】高等教育機関において国際的に活躍しうる人材の育成は極めて重要な使命となっている。本研究は、欧州ならびに北米における学習成果分析 (Learning Outcome Assessment) の事例から学び、多様な海外学習体験 (留学、国際インターンシップなど) が国際社会する人材育成にどう効果を発揮しているかを調査・分析する。また、本研究ではEポートフォリオを使った学習成果分析をすすめ、グローバル・キャリア支援のための有効なEポートフォリオを構築していく (科研費基盤B)。

【研究内容】

「グローバル人材育成」は現代日本の喫緊の課題であるが、本研究では「グローバル人材育成」に「留学」が果たす長期的なインパクトについて、包括的・体系的な調査分析を行う。当該研究者は、これまでは大学国際化にかかわる組織戦略や留学生招致にかかわる政策の国際比較などをテーマとする科研費研究を推進してきたが、従来からの研究テーマに加えて、国際教育プログラムが個人のキャリア形成にどのようなインパクトを与えるか、を中心的な研究テーマとしていきたい (平成 23 年度より 3 年間 : 科研費基盤 B による研究)。

- ① 先行研究としては、2006 年からミネソタ大学の研究チームにより、SAGE (Beyond Immediate Impact: Study Abroad for Global Engagement;) というプロジェクトが実施されている。SAGE は、留学経験者 6,000 人に対して実施された回顧的追跡調査であり、留学がキャリアにもたらしたインパクトを分析している。
- ② 留学の効果を測定する分析指標として、IDI (Intercultural Development Inventory) や BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) などの異文化適応テストが、米国を中心に広く運用されているので、日本の学生にも試験的にテストを実施する。
- ③ 留学経験者の雇用主に対する人材評価調査も、米国および欧州での先行研究をもとに実施する。
- ④ 「グローバル人材育成事業」に採択された三大学の協力を得て、大学生の留学への指向性、国際意識等のデータ収集を行う。このデータ収集には、E ポートフォリオを活用するが、E ポートフォリオを使った学習成果分析の効果的な運用も研究課題の一つである。

これらの分析を通じて、留学が時代を超えてもたらす普遍的な価値や意義を抽出すると共に、企業が求める国際人材のニーズと現代の学生の意識と経験のマッチングをはかり、留学が最大の効果を生み出すような教育カリキュラムの要件を明確化していく。

【実用化・活用が見込まれる分野・対象業種等】

留学をはじめ多様な海外学習体験プログラムを評価し、学生の学習成果を分析する。

【関連特許】(特許名称・出願番号等)